

# 薪利用する生活広まれ

## NPOなどが推進協 19日、左京で総会

森林が生み出すエネルギー資源「薪」を利用した暮らしを広めようと、NPO法人や京都府森林組合連合会などが「薪のくらし推進協議会」を立ち上げる。薪の生産者や消費者だけでなく、山や森とのかかわる活動をしているグループや個人に広く参加を呼び掛けており、19日に、京都市左京区の京都府立大で設立総会や記念講演を行う。

府立大、同大学院で森林心に、NPO法人環境保 設立実行委員会をつくらしめる。全ネットワーク京都や府 林科学を学び、卒業後に 就職した会社で薪に関する情報サイトを運営して

きた、長岡京市の会社員 会、京都モデルフォレス 井澤佑真さん(27)を中 ト協会などが今年6月に 料の使用減に加え、森林

## 生産者と消費者つなぐ



薪割りに挑戦する井澤さん(右)。協議会では薪割りを体験する催しなども計画している—長岡京市浄土谷

が育つ際に二酸化炭素を吸収するため、地球温暖化防止につながる。薪ストーブや薪ボイラーなどが開発され、府内で薪の生産者もいるが、「消費者まで情報が届いておらず、流通上の課題は大きい」と井澤さんは説明する。

「薪の生産者と消費者との意見交換のつどい」と題した総会では、宮藤久士府立大准教授(森林資源循環学)が「山と暮らしの関わりを見つめなおす」をテーマに記念講演。薪作りに取り組む市民グループや南丹市の薪販売業者、薪ストーブの使用者による事例発表がある。無料。今後は、12月に伏見区の京都バルスプラザである京都環境フェスティバルで、薪割り体験や薪利用ワークショップを計画している。

井澤さんは「生産者と生産者、生産者と消費者が顔の見える関係を築き、町と山をつなぐ地産地消を京都で実現したい」と話している。総会は午後1時半から。申し込みは井澤さん携帯電話090(21078)5714かメール yamaka rayaa@gmail.comへ。

(松田規久子)